

教育研究業績書

2018年11月08日

所属：共通教育部

資格：教授

氏名：河内 鏡太郎

| | |
|-------------|-----------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| ジャーナリズム、現代史 | アウシュビッツ、沖縄白梅の悲話、遺品は語る |
| 学位 | 最終学歴 |
| 文学士 | 神戸大学 文学部 東洋史学科 卒業 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------|-----|----|
| 事項 | 年月日 | 概要 |

| | | |
|-----------------------|-----------------|--|
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. ジャーナリストとしてのキャリアを活用 | 2011年4月～2015年3月 | 記者たちの行動と紙面に込められた意識を知れば新聞に興味を持つ。彼らの苦悩と誇りを具体的に示す。報道の出発点は主観からである。それに客観的な事実を積み重ねて初めて報道となる。そのプロセスを学ばせる、「現場主義」をジャーナリズムの世界を舞台に考える。報道が社会に果たす役割を考察する一方で、風化と戦う使命を東日本大震災や阪神大震災から探る。就職活動におけるエントリーシートや面接に対応するのも「言葉の力」である。新聞を読むこと、社会に関心を持つこと。この二点を習得させる。戦争が終わって70年になり、語り継ぐことは困難になった。体験者は減っていく一方である。戦争遺跡も消えている。若者の関心は薄れるばかりだ。第二次大戦の最大の惨禍とされるアウシュビッツとヒロシマ、そしてわが国で唯一戦場となった沖縄。兵士ではない女性たちにも容赦なく悲劇は襲った。私は新聞記者としてその場に立ち、膨大な証言と遺品に向き合ってきた。授業で登場するのはすべて、学生たちと年齢の変わらない女性ばかりだ。戦争遺跡の保存、証言者からの継承など、新しい試みを織り交ぜ、現代の戦争にも触れる。映像、写真を駆使し、考え議論させる。 |
| 2. 最新のニュースを駆使した双方向授業 | | |

| | | |
|---------------------|--|--|
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| | | |

| | | |
|------------------------------|----------------------|--|
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. ジャーナリストとしての経歴 | 1966年4月1日～2014年8月31日 | 1966年読売新聞大阪本社入社、広島支局勤務。社会部記者、神戸支局長、社会部長、編集局次長等を経て、2001年編集局長、2006年常務取締役役に、2008年、専務取締役コンプライアンス担当に就任。2009年6月退任、読売新聞大阪本社顧問に就任。2011年6月退任 2009年4月から2011年4月までは芦屋市谷崎潤一郎記念館の館長を歴任。 |

| | | |
|----------------|----------------------|--|
| 4 その他 | | |
| 1. 読売新聞勤務時代の教歴 | 1994年4月1日～2009年6月10日 | 神戸大学キャリアセンター「職業と学び」（現在も） 大阪大学人間科学部 立命館大学産業社会学部 大阪国際大学 大阪芸術大学放送学科 大阪女学院大学 上記各大学で非常勤講師 追手門学院大客員教授（2005・4・1～2008・3・31） |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|--------------|-----|----|
| 事項 | 年月日 | 概要 |

| | | |
|------------------------------|-----------------------|---|
| 1 資格、免許 | | |
| | | |
| 2 特許等 | | |
| | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| | | |
| 4 その他 | | |
| 1. 2014年度西宮市大学共通単位講座前期担当 | 2014年4月11日～2014年7月18日 | 「女性たちの戦争」という授業を15回実施。他大学と本学学生の学力、知的レベル、自立性など比較できる機会を得た。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|------------------|---------|------------|-------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 明治人 言っておきたいこと | 共 | 1998年7月15日 | 東方出版社 | 明治の気風を継ぎ、明治、大正、昭和、平成と4代を生きてきた人々が今の日本を、世情をどう見てい |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---------------------------------|---------|-------------|-------------------|---|
| 1 著書 | | | | |
| 2. ふるさと春秋 阪神間の歴史散歩 | 共 | 1988年2月28日 | 中外書房 | るのか。明治人へのインタビューを通じて考えてみた。 大阪とも神戸とも違う独特の風土を形成している阪神間の都市。その個性を探る。 |
| 3. 君はアメリカを見たか | 共 | 1985年9月25日 | 角川書店「角川文庫」 | 巨大な国家、アメリカ。その実相に迫る。アメリカの「歩き方」としてもユニークな企画となっている。 |
| 4. 普段着の平和と社会科—アウシュビッツと原爆のあいだで | 共 | 1984年10月1日 | センチュリー・プレス | 第二次世界大戦の最大の惨禍とされるアウシュビッツと原爆。二つをつなぐものはなにか。日本で開催したアウシュビッツ展、呼応してポーランド各地で展開した原爆展。その成功に携わった記者たちが感じた戦争とはなにか。なにを伝えるべきか。渾身のルポルタージュ。 |
| 5. ドキュメント 新聞記者—三菱銀行事件の42時間 | 共 | 1980年1月26日 | 講談社 | 猟銃を手に銀行に押し入り、警察官二人と銀行員二人を射殺、三十人以上を人質に立てこもった事件。記者たちはなにを考え、どう行動したのか。素顔を晒しながら報道を組み立ててゆく記者たちを描く迫真のドキュメンタリー。 |
| 6. 続々々 われわれは一体なにをしておるのか | 共 | 1979年6月8日 | 講談社 | 上記に同じ |
| 7. 続々 われわれは一体なにをしておるのか | 共 | 1979年1月30日 | 講談社 | 上記に同じ |
| 8. われわれは一体なにをしておるのか | 共 | 1978年6月30日 | 講談社 | 戦後34年。民主主義は果たして根付いたのだろうか。著名人のインタビューと現場から考えるユニークな日本論 |
| 9. 続 われわれは一体なにをしておるのか | 共 | 1978年10月10日 | 講談社 | 上記に同じ |
| 10. 女—男の続編— | 共 | 1977年10月25日 | 読売新聞社 | 「男」が多くの読者の共感を呼んだためその続編として読売新聞紙上で連載。単行本化した。 |
| 11. 男 | 共 | 1977年1月31日 | 読売新聞社 | 男は果たして弱くなったのか。男の今を探りたい。そんな思いからスタートした連載は読者の圧倒的な支持を得た。読者と双方向で考えた新しいスタイルの新聞連載を単行本にした。 |
| 12. 紀行 小説の四季 下 | 共 | 1975年6月25日 | 小説の四季 「上」に同じ | 小説の四季 「上」に同じ |
| 13. 紀行 小説の四季 上 | 共 | 1975年5月6日 | 株式会社「ナンバー出版」 | 記者たちが名作とされる小説の背景を求めて取材を重ね、その作品に新たな視点を当てる。 |
| 14. 国境物語 大和の歴史と旅 | 共 | 1975年12月10日 | 廣済堂出版 | 葛城、生駒山に焦点を定め日本史の重要な担い手となった両山系の歴史を多角的に考察した。 |
| 2 学位論文 | | | | |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 薬学図書館 5 3 巻3号 | 単 | 2013年 | 日本薬学図書館協議会 | 学生たちの読書離れを食い止めるために展開する新たな挑戦を解説した。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. 平成23年度教育改革ICT戦略大会 | 共 | 2011年09月 | 公益社団法人 私立大学情報教育協会 | μCAMというLMSの課題機能を駆使して受講生1人ひとりと向き合う双方向性の強い授業に取り組んだ報告。「ジャーナリズムとキャリア」「アウシュビッツ 戦争と女性」の2コマ計180人の学生に対して徹底した添削を実施、文章能力の向上、思考の柔軟性を育成した試みについて |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|--------------------------|------------------|
| 1. 2014年9月11日～2014年9月11日 | 尼崎市武庫市市民大学教養講座講師 |
| 2. 2012年～2013年9月4日 | 生涯学習鳴尾大学講師 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|--------------------------|-----------------------------|
| 3. 2009年5月1日～2014年8月31日 | 学校法人大阪女学院理事・評議員 |
| 4. 2009年4月1日～2011年3月31日 | 芦屋市谷崎潤一郎記念館館長 |
| 5. 2009年4月1日～2011年6月30日 | 追手門学院大将来計画推進委員 |
| 6. 2009年12月1日～2011年6月7日 | 学校法人大阪女学院経営協議会座長 |
| 7. 2008年7月1日～2009年3月31日 | 追手門学院大理事長学院長アドバイザー |
| 8. 2008年11月～2014年11月 | 追手門学院文章表現コンクール「青が散る」アワード審査員 |
| 9. 2004年4月1日～2010年3月31日 | 国立大学法人神戸大学経営協議会委員 |
| 10. 2003年5月1日～2014年8月31日 | 下級裁判官指名諮問委員会大阪地域委員会委員 |